

書き続けよう

編集部

「12回を振り返って」から引用。

2017年春から、半年ごとに12回続けることができた。作品を応募して頂いた作者の皆さん、ありがとう。

一区切りとして、これまでと、これからについて考えたことを書いてみる。

続けてみてわかったことは、毎回、投票結果は大きくバラつき、約半数の作品が得票すること。思うに、過半数を得るような圧倒的に優れた作品がないのか？

「そうではない」

面白い作品はいくつもある。つまり人の好みは様々ということだろう。日本で小説を読む人は十人に一人もいない、60万人程らしい。一万部売れる作品も読者人口の0.1%にも満たないわけだから、得票がなくても悲観することは全くない。

さて、敗者復活文学賞を始めたきっかけは小さな反抗心であった。詳しくは第24回に語ることにして、定期的に作品集を作ってしまうば「書くこと読むこと」をせざるを得ない。他にはないユニークなやり方を考えた。

応募者は参加費千円を払い、作者名秘密のままネット上の作品を読み、自作以外に投票し、一番得票の多い作品が受賞し参加費全部獲得する。文学フリマ会場にて作品集で受賞発表とした。第1回は6作品で賞金6千円。第2回は12作品で賞金一万二千円。倍々と増えれば、千人で賞金百万円になる！と皮算用通りとはならなかったが、ルールや編集を変えしなから続けてきた。

初期の作品集では頁数制約から作品集は上位10作品程しか掲載できず、作品集は参加費とは別料金を先払いのため作品集に自作がない場合もあり申し訳なかった。コロナでフリマが中止になって第7回から参加費無料とした。全作をしつかり読む最大数として応募枠を25作品に増やした。得点下位作品を二段組編集にして、予約購入者の作品は得票なしでも掲載することに変更。作品受付スタートから二週間ほどで応募枠はうまり、仕組みは完成したかに思われた。

ここで新たな問題、第11回で投票しない応募者が発生。12回も連絡しても投票しない応募者が出る。作品を送るだけで他作品に興味もなく、もちろん読まないのだろうか。

第13回は初心に、原点に戻ろうと思う。趣旨に賛同し参加料を出してもいいと思う情熱ある作家に応募して欲しいとルール変更した。

13回で次のように変更した。

- ・参加費1800円とする。
- ・文学フリマ東京にブース出店を再開する。
- ・応募者全員に1冊を進呈（会場手渡し、あるいは郵送、追加購入可能）
- ・作品集に全作品を同じ文字の大きさと掲載するため書式変更。
- ・応募受付数を減らし、最大15作品までとする。
- ・作品は文字校正しないでネット掲載（以前は校正していた、作品集では編集）
- ・ネット掲載順を変更、これまでランダムだったが応募順（参加費入金先着順）とする。
- ・応募者の投票は1票から2票に変更した。

ここから新しく追記「14回を振り返って」

15回から次のように変更予定である。

- ・文学フリマ東京へのブース出店はやめる（一般入場者も有料1000円となるため）
 - ・参加費1500円とする（第14回作品集141頁の金額は訂正）
 - ・他、これまで通り。作品集に応募全作品を掲載、全応募者に作品集を進呈。
- 詳しくは応募後の作品仮受付メールをご確認ください。

敗者復活文学賞は「書くこと読むこと」の道場として24回まで続ける。

伴走してくれ、作家仲間諸君！